

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670400746
法人名	特定非営利活動法人 米沢清友会
事業所名	グループホーム ピュアフォレスト
訪問調査日	平成 19 年 10 月 18 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 10 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかかぬ場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月28日

【評価実施概要】

事業所番号	670400746		
法人名	特定非営利活動法人 米沢清友会		
事業所名	グループホーム ピュアフォレスト		
所在地 (電話番号)	山形県米沢市大字三沢26106-14 (電話) 0238-21-1973		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成19年10月18日	評価確定日	平成19年12月10日

【情報提供票より】(平成19年8月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	16 人, 非常勤 人, 常勤換算 14.9 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	新築/改築
建物構造	木造	造り
	2階建ての	階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(50,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/○無
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(8月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.9 歳	最低	57 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	たかだ内科、米沢市立病院、くまの医院、山崎歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは田んぼや山並みが見渡せ、河原も近くにある自然豊かな環境の中にあり、利用者や職員がすべて地域の一員であると認識しながら、地域の小学生のお手紙や訪問、老人クラブの送迎、地域の運動会参加やホームの夏祭りなどへの協力、参加による交流が盛んに行われています。また、北館には利用者の重度化に対応できるよう「リフト浴」の設備もあり、要介護度が変化した利用者であっても、より安全に生き生きとした生活を安心して送ることができるように取り組んでいるホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>居室入り口ドアにある小窓のカーテンを開けると廊下から居室の中の様子が見える点について、プライバシーをより尊重した工夫と配慮が望まれるとの課題については、目隠しシートを貼ることを試みたが、家族から従来の状態での安全確認を求める声も運営推進会議で出されたため、取り組み内容について再検討中である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者、管理者、全職員で話し合いを行い、部門会議の際に職員全員で考えた評価結果についての検討が行われている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>市の担当者、民生委員、すべての利用者家族に参加を呼びかけて3ヶ月ごとに開催されており、利用者の生活の流れ、職員の資格保有状況、研修の内容、外部評価の結果等を議題にした話し合いが行われている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年1回の家族アンケート、家族からの手紙、訪問時の会話、運営推進会議での発言内容等から家族の意見を把握し、運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地区の運動会やクリーン作戦に参加し、ホームのお祭りには老人クラブの方の手伝いや子供たちの参加がある。また、小学校、町内会、老人クラブとの交流も盛んであり、地区行事の際にはホームが送迎の協力も行っている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員が地域密着型サービスの意義を確認し、地域の一員として地域の協力を得られ、利用者が地域で生き活きと生活できるような理念を作り上げている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時は必ず理念を伝え、会議などで常に話し合いを行って理念に基づいたケアを検討し、理念の実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の運動会やクリーン作戦に参加し、ホームのお祭りには老人クラブの方の手伝いや子供たちの参加がある。また、小学校、町内会、老人クラブとの交流も盛んであり、地区行事の際にはホームが送迎の協力も行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、全職員で話し合いを行い、部門会議の際に職員全員で考えた評価結果についての検討が行われている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の担当者、民生委員、すべての利用者家族に参加を呼びかけて3ヶ月ごとに開催されており、利用者の生活の流れ、職員の資格保有状況、研修の内容、外部評価の結果等を議題にした話し合いが行われている。		

山形県 グループホーム ピュアフォレスト

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事故報告書の提出や運営上の対処法の確認等を行い、市町村担当者に伝えて連携を深めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月のホームだよりのお手紙で利用者の暮らしぶりや健康状態を報告し、面会時の話し合いや電話での報告が行われている。また、金銭管理は小遣帳に明記し、面会時に家族から確認してもらいサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族アンケート、家族からの手紙、訪問時の会話、運営推進会議での発言内容等から家族の意見を把握し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者、家族の方の信頼関係を築くためにも、馴染みの職員となるように職員を固定しており、1年間は交代は行っていない。やむを得ない場合は、引き継ぎをしっかり行うようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員のレベルに合わせ、職員全員が外部研修会に参加できるように配慮している。また、研修委員会があり、介護予防等についての内部研修が行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のホームの見学や研修交流を行っており、生活のリズム、趣味活動、一日の時間の流れなど、他のホームから学んだものをサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の食事作り、「ぼた餅」や「笹巻き」作り、山菜の仕分け、草取り、雪はきなどを利用者と職員が一緒に行い、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や関係者から情報を得ながら、利用者との関わりやコミュニケーションを通して思いや希望を引き出し、本人の立場に立って考え、支援するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望・意見を聞き反映させている。また、毎月の会議で意見交換や点検・確認を行い、体を動かすことが好きな方には、外での活動を多く取り入れた個別の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて3ヶ月ごとの点検・確認を行い、検討会議で見直しを行っている。また、状態が変化した場合は、十分な説明をして計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	協力医療機関から月に1~2回の往診を受けており、ま た、利用前からかかっている医院への受診支援も受け られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	南館は家庭と同じ入浴設備であるが、北館は重度化に 対応できるリフト浴を設置しており、かかりつけ医や家 族とも連絡を取り合いながら、状態の変化に応じた対応 を行うようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	利用者の言葉を否定せず受け止める、トイレ誘導はさり げなく行う、利用者の目線で声をかける、記録等は利 用者の目の前で書かない、記録の保管は目に付かな い場所にするなどの取り組みが行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の様子を観察しながら、朝礼時に一日の流れを 説明し、外食の希望や外出の希望なども聞いている。 また、利用者の訴えがある時は、じっくり納得いくまで対 応して信頼を失わないような関係を築いている。		

山形県 グループホーム ピュアフォレスト

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立をホワイトボードに書き出し、職員と一緒に調理を行って楽しく食事を食べている。また、後片付けも能力に合わせた作業を分担してもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があればいつでも入浴は可能であり、利用者の希望を聞きながら入浴してもらっている。また、北館にはリフトを設置しているため、安全に安心して入浴してもらうことができる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、配膳、茶碗拭き、梅漬け、草むしり、雪囲い、雪灯籠作り、行事の挨拶、乾杯の挨拶、手芸など、利用者一人ひとりに役割を持ってもらうようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	川辺の公園など馴染みの場所や利用者の行ってみたい所にいつでも出かけられるように支援している。また、弁当持参のドライブ、天気の良い日には外にテーブルを出して食事を楽しむことも行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	日中は施錠することなく、利用者の生活習慣を把握し、外出傾向がある方は、見守り・気配りで常に行動を一緒にするようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	各ユニットに防火管理者を配置し、年2回消防署の協力を得ながら避難訓練を行っており、10月には夜間を想定した訓練も行った。また、地域の消防団の協力を得られるように運営推進会議で呼びかけ、災害報知器、消火器、乾パン、毛布等の用意をしている。		

山形県 グループホーム ピュアフォレスト

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の排泄量、水分量、摂取量は記録表やケースに記録し、病気によっては食事の量を医師の指示に従っている。また、嫌いなものは事前に別のものに対応し、状態によっては、やわらかいものや刻んだものに対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	山々や田んぼが眺められて季節が感じられるホーム内には、写真、絵、書などが展示され、居心地のよい空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、一人ひとりの使い慣れた鏡台、たんす、テーブル、写真などが持ち込まれている。また、ベッド、布団は家族と相談して使いやすいように設置し、居心地がよいように工夫している。		